

平成29年度 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）
ビジネス基礎における観光ユニットの取組 観光に関する講話（6月22日実施） 報告書

1. 事業の概要

1-1. 内容

札幌市が観光やMICEなどの政策に力を入れる背景や札幌市の将来像・目標を実現するための計画に対する講話を受け、札幌市の現状や課題を認識する。その後、グループ討議により知識の共有を図り、札幌市が目指すべき札幌の将来像に向けて、自分達には何が出来るのか考える機会とする。

1-2. 講話の目的

- ①人口減少が札幌市に与える影響を知る。
- ②札幌市が目指すべき札幌の将来像を知る。
- ③目標実現のための未来創生アクションを知る。

1-3. グループ討議とクラス発表の目的

- ①講話を通して、何を知ることが出来たか、知識の共有を図る。
- ②札幌市が目指すべき札幌の将来像に向けて、自分達には何が出来るのか考える。
- ③グループ討議した内容を発表し、全体で知識と考えを共有する。

1-4. カリキュラム上の位置付け

学年：1 学年 学科：未来商学科 教科：商業 科目名：ビジネス基礎
対象生徒：240名（男子：85名 女子：155名）

2. 具体的・特徴的な実践内容

2-1. 活動の記録

期間：平成29年6月19日（月）～7月11日（火）

次の表は1年A組の記録である。

1時間目	6月21日（水）1校時	事前学習（事前アンケート）
2時間目	6月22日（木）5・6校時	講話
3時間目	6月23日（金）3校時	講話の振り返り（事後アンケート・作文）
4時間目	6月27日（火）3校時	グループ討議
5時間目	6月28日（水）1校時	グループ討議
6時間目	6月30日（金）3校時	発表準備
7時間目	7月 5日（水）1校時	クラス発表
8時間目	7月 6日（木）5校時	クラス発表
9時間目	7月 7日（金）3校時	クラス発表後の振り返り（事後アンケート・作文）

2-2. 講話実施日の動きについて

日 時：平成29年6月22日（木） 5・6校時 13:20～15:10

場 所：本校 講堂（1階）

講 師：札幌市 まちづくり政策局 政策企画部 企画課 企画担当係長 阿部 恵輔 様

札幌市 まちづくり政策局 政策企画部 企画課 企画担当係長 鈴木 陽介 様

テーマ：「さっぽろ未来創生プラン」～若者の希望の実現を目指して～

備 考：13:15 廊下整列・移動開始（椅子・筆記用具持参）

13:25 移動完了

13:30 講師紹介・講話開始

|

（講話時間50分）

|

14:20 講話終了・質疑応答

14:30 謝辞・講師退場（代表生徒：1年A組 ****）

14:35 国内バス研修の報告会

15:10 教室へ移動

準 備：①PC ②プロジェクター ③レーザーポイントマウス ④マイク2本 ⑤マイクスタンド

⑥演題 ⑦ドラム ⑧デジタルカメラ ⑨講師用パイプ椅子 ⑩プロジェクターケーブル

2-3. 使用教材について

①札幌市が用意した資料

②自作の冊子（「ビジネス基礎」観光に関する講話）

3. 成果と今後の課題

3-1. 成果

① 地元札幌市における少子高齢化の現状や札幌市が平成28年に策定した「さっぽろ未来創生プラン」を学ぶことにより、本校がSPH事業で5つの柱としている「観光」「MICE」「国際交流」「起業家教育」「地域ビジネス」と札幌市の今後の取り組みが同じ方向性であることを知ることが出来た。このことにより、SPHの取り組みとして学んでいる知識や内容は在学中のみならず、上級学校へ進学した際や企業へ就職した際、そして、一市民として生活していく際にも活用される知識であることを認識することが出来た。この様に行政の計画を理解し、市民生活を送ることは住民自治への第一歩として大切な視点であると考ええる。これらの知識がベースとなり、「観光」「MICE」「国際交流」「起業家教育」「地域ビジネス」に関する各ユニットの取り組みの導入に繋がることにより、各ユニットにおける学びが最大化されることを期待する。

② 「観光」や「MICE」は少子高齢化が進行し今後人口減少に伴う経済の縮小に対応するために、力を入れていかなければならない産業や事業であることを知ることが出来た。観光やMICEにとってグローバルな視点とローカルな視点を持つことは大変重要である。グローバルな視点とは、観光やMICEを通してインバウンドに対応することをはじめ、市場の対象、取引の対象、ビジネスを考える視点を世界規模に広めることである。そのためには、外国語の習得はもちろん異国の文化を尊重し理解する態度が「国際交流」を勧める人材には欠かすことが出来ない。一方で、ローカルな視点とは、自分たちが住む地域に目を向け、その土地にしかないモノやコトに目を向け、その地域の魅力を認識し、外部へ発信していくことである。各地域の小さなモノやコトに対する情報が発信されることにより地域の魅力

が国内外に伝わり地域の知名度向上や地域の振興につながる。また、このような活動は多くの地域で抱えている課題を解決することにもつながり「地域ビジネス」としての取り組みとなる。この様に、各ユニットの取り組みは縦断されているのではなく、横断的にかかわっていることを認識することにもつながった。

③ グループ（１班５人構成）による言語活動を通して知識の共有を図ることにより、協調性を高める機会になった。グループ討議では話し合いを活性化させる目的で付箋と模造紙を使用するＫＪ法を取り入れた。ＫＪ法に取り組む前に各自の冊子に講話を受けての感想文（８００字）と講話から知り得た知識を１０項目記入させた。グループ討議では初めてのＫＪ法でありながら意見を出し合い、キーワードを整理し、協力しながらまとめることが出来た。自分と同じ内容の意見に共感し、自分には思いつかなかった意見を聞くことにより、相手の意見を尊重しながらグループとしての意見をまとめることができた。アンケートから、グループ活動以前はグループの中で自分の意見を相手に伝えることや意見をまとめることに対する苦手意識を持つ生徒も自分の意見を相手に伝えることが出来たり、意見をまとめることが出来たと回答する割合が多くなった。

④ グループ討議後は模造紙にまとめ、クラス内で発表を行い、各グループでどのようなことが話し合われたのかグループ間による共有が行われた。答えのないコトについて話し合い、協力しながら模造紙を完成させ、発表に関しては班員全員が話す機会を設けることを条件とした。模造紙の記入や発表内容の整理など悪戦苦闘しながらも発表へ向けて準備をすることや緊張しながらも班員全員で力を合わせて発表をおこなうことにより、力を合わせて取り組むことの重要性や知識を集約することにより新しいアイデアや発想につながることを知る機会となり、協働性が養われたと考える。

３－２．今後の課題

① 本校のＳＰＨ事業の導入として講話やグループ討議を実施したが、生徒にどこまで浸透したか不透明な部分がある。効果の最大化を目指すためには、担当教員間の綿密な事前打ち合わせと目的意識の統一を図ること、さらに、生徒に対する事前学習の工夫・効果測定方法の研究が必要である。

② グループ間における知識の共有を図ることが難しかった。発表側の生徒も話することに夢中になり発表の目的である、意見を伝えることがおろそかになってしまった。また、聞く側も傾聴する姿勢に課題が残り、グループ間による知識の共有という目的には達しない生徒も見受けられた。発表側の対策としてリハーサルの時間をもう少し多く設けることや発表内容を文章化するなどの工夫が必要である。また、聞く側に対するアプローチとしては、発表前に話を聴くことに対する意識づけをさらに高め、各班終了後の質疑応答や各班に対する意見を求めるなど、発表への参加意識を高め傾聴する姿勢を改善する仕掛け作りが考えられる。

3-3. アンケート集計結果

講話実施前			講話実施後		
【問1】札幌市の人口は、自然増加数(出生数－死亡数)がマイナスである「自然減少」の状態であることを知っていますか？			【問12】札幌市の人口は、自然増加数(出生数－死亡数)がマイナスである「自然減少」の状態であることが分かりましたか？		
1. 知っている	88	37.0%	1. 分かった	232	97.5%
2. 知らない	150	63.0%	2. 分からない	6	2.5%
【問2】人口減少が自分達の生活に与える影響について考えたことはありますか？			【問13】人口減少が自分達の生活に与える影響について考える機会になりましたか？		
1. 考えたことがある	114	47.9%	1. 考える機会になった	229	96.2%
2. 考えたことはない	124	52.1%	2. 考える機会にならなかった	9	3.8%
【問3】札幌市において、人口減少が進むことに対して将来の不安を感じますか？			【問14】札幌市において、人口減少が進むことに対して将来の不安を感じましたか？		
1. 非常に不安	31	13.0%	1. 非常に不安	55	23.1%
2. まあまあ不安	153	64.3%	2. まあまあ不安	168	70.6%
3. あまり不安ではない	47	19.7%	3. あまり不安ではない	14	5.9%
4. 全く不安ではない	7	2.9%	4. 全く不安ではない	1	0.4%
【問4】札幌市は合計特殊出生率(一人の女性が一生に産む子供の平均数)が全国と比較して低いことを知っていますか？			【問15】札幌市は合計特殊出生率が全国と比較して低いことが分かりましたか？		
1. 知っている	53	22.3%	1. 分かった	233	97.9%
2. 知らない	185	77.7%	2. 分からない	5	2.1%
【問5】札幌市は人口減少問題に対してどのように取り組むべきだと思いますか？			【問16】札幌市は人口減少問題に対してどのように取り組むべきだと思いますか？		
1. すぐに取り組むべき	71	29.8%	1. すぐに取り組むべき	108	45.4%
2. 次世代のために徐々に取り組むべき	162	68.1%	2. 次世代のために徐々に取り組むべき	128	53.8%
3. 将来の問題であり、当面取り組む必要はない	3	1.3%	3. 将来の問題であり、当面取り組む必要はない	2	0.8%
4. 人口減少問題に取り組む必要は全くない	2	0.8%	4. 人口減少問題に取り組む必要は全くない	0	0.0%
【問6】札幌市が目指す札幌の将来を知っていますか？			【問17】札幌市が目指す札幌の将来を知っていますか？		
1. 知っている	8	3.4%	1. 知ることが出来た	220	92.4%
2. 知らない	229	96.6%	2. 知ることが出来なかった	18	7.6%
【問7】札幌市の目標実現のための未来創生アクションを知っていますか？			【問18】札幌市の目標実現のための未来創生アクションを知っていますか？		
1. 知っている	4	1.7%	1. 知ることが出来た	207	87.3%
2. 知らない	234	98.3%	2. 知ることが出来なかった	30	12.7%
【問8】あなたはグループの中で自分の意見を相手に伝えることは得意ですか。			【問19】あなたはグループの中で自分の意見を相手に伝えることは出来ましたか。		
1. 得意	18	7.6%	1. 出来た	91	40.4%
2. やや得意	83	34.9%	2. やや出来た	97	43.1%
3. あまり得意ではない	114	47.9%	3. あまり出来なかった	31	13.8%
4. 得意ではない	23	9.7%	4. 出来なかった	6	2.7%

グループ活動実施前			グループ活動実施後		
【問9】あなたはグループの中で他者の意見を聞き、考えを理解することは得意ですか。			【問20】あなたはグループの中で他者の意見を聞き他者の考えを理解することは出来ましたか。		
1. 得意	55	23.1%	1. 出来た	137	60.9%
2. やや得意	145	60.9%	2. やや出来た	81	36.0%
3. あまり得意ではない	35	14.7%	3. あまり出来なかった	6	2.7%
4. 得意ではない	3	1.3%	4. 出来なかった	1	0.4%
【問10】あなたはグループの中で意見をまとめることは得意ですか。			【問21】あなたはグループの中で意見をまとめることは出来ましたか。		
1. 得意	6	2.5%	1. 出来た	55	24.4%
2. やや得意	85	35.7%	2. やや出来た	98	43.6%
3. あまり得意ではない	114	47.9%	3. あまり出来なかった	61	27.1%
4. 得意ではない	33	13.9%	4. 出来なかった	11	4.9%
【問11】あなたはグループで話し合ったことを、人前で発表する活動は得意ですか。			【問22】あなたはグループで話し合ったことを、人前で発表することに対して意識の変化はありましたか。		
1. 得意	12	5.0%	1. 苦手意識が薄れた	39	17.5%
2. やや得意	40	16.8%	2. やや苦手意識が薄れた	96	43.0%
3. あまり得意ではない	102	42.9%	3. 変化はない	86	38.6%
4. 得意ではない	80	33.6%	4. 苦手になった	2	0.9%
5. 経験がない	4	1.7%	【問23】今回の活動（講話を聴きグループで話し合い発表する）はあなたの為になりましたか。		
			1. とても為になった	80	35.9%
			2. 為になった	123	55.2%
			3. 為にならなかった	10	4.5%
			4. 分からない	10	4.5%

【問24】講話やグループ活動に対して積極的に取り組み、学ぶ意欲が高まったと思いますか。		
1. 思う	63	27.4%
2. どちらかと言えば思う	138	60.0%
3. どちらかと言えば思わない	27	11.7%
4. 思わない	2	0.9%

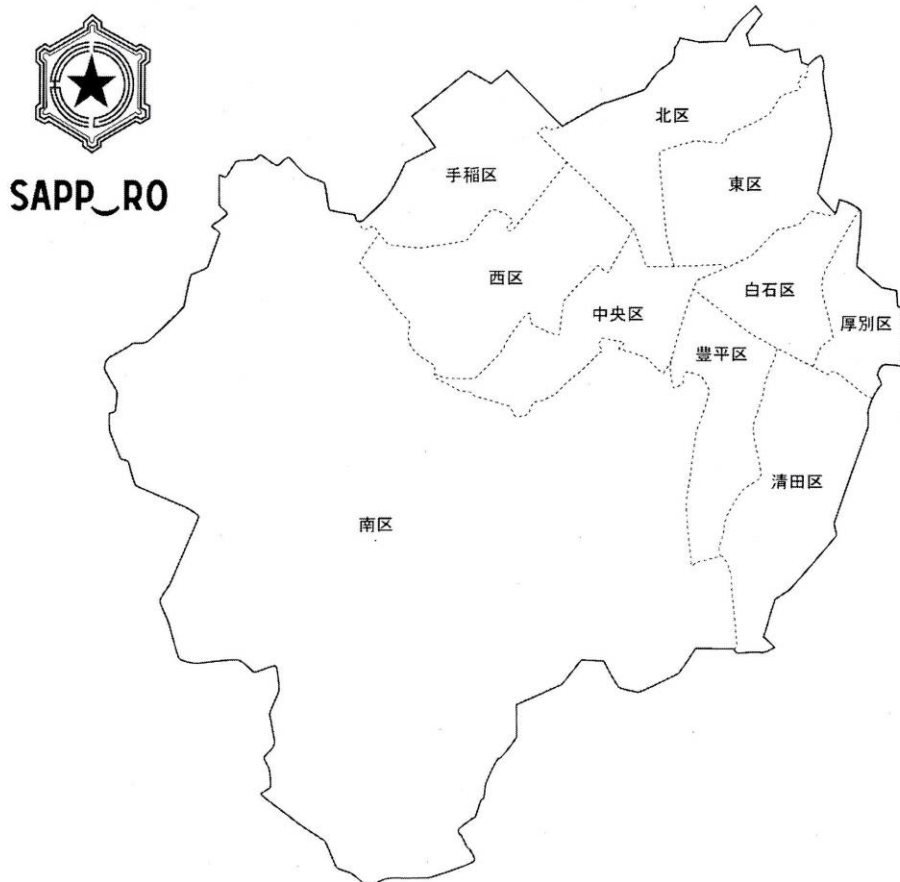
【問25】課題に対する解決方法を考え、課題解決に向けて取り組む力が高まったと思いますか。		
1. 思う	70	30.4%
2. どちらかと言えば思う	132	57.4%
3. どちらかと言えば思わない	26	11.3%
4. 思わない	2	0.9%

【問26】講話やグループ活動を通じて、新たな知識や技術を習得し自分のスキルアップに繋がったと思いますか。		
1. 思う	78	33.9%
2. どちらかと言えば思う	120	52.2%
3. どちらかと言えば思わない	31	13.5%
4. 思わない	1	0.4%

【問27】講話やグループ活動を通じて、自分の将来の職業に対する意識が高まることに繋がったと思いますか。		
1. 思う	54	23.5%
2. どちらかと言えば思う	108	47.0%
3. どちらかと言えば思わない	61	26.5%
4. 思わない	7	3.0%

平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH)
『マネジメント能力を身につけた職業人の育成 ～ 札幌の未来を担う人材の育成』

「ビジネス基礎」観光に関する講話



北海道札幌啓北商業高等学校 未来商学科
1年 組 番
氏名



「ビジネス基礎」観光に関する講話 実施要項

1. 内容

札幌市が観光やMICEなどの政策に力を入れる背景や札幌市の将来像・目標を実現するための計画に対する講話を受け、札幌市の現状や課題を認識する。その後、グループ討議により知識の共有を図り、札幌市が目指すべき札幌の将来像に向けて、自分達には何が出来るのか考える機会とする。

2. 講話の目的

- ①人口減少が札幌市に与える影響を知る。
- ②札幌市が目指すべき札幌の将来像を知る。
- ③目標実現のための未来創生アクションを知る。

3. グループ討議とクラス発表の目的

- ①講話を通して、何を知ることが出来たか、知識の共有を図る。
- ②札幌市が目指すべき札幌の将来像に向けて、自分達には何が出来るのか考える。
- ③グループ討議した内容を発表し、全体で知識と考えを共有する。

4. カリキュラム上の位置付け

学年：1学年 学科：未来商学科 教科：商業 科目名：ビジネス基礎
対象生徒：240名（男子：85名 女子：155名）

5. 活動期間：平成29年6月19日（月）～7月7日（金）

1時間目	事前学習（事前アンケート【①】）
2時間目	講話
3時間目	講話の振り返り（事後アンケート【②】・感想文800文字【③】）
4時間目	グループ討議
5時間目	グループ討議
6時間目	発表準備
7時間目	クラス発表【グループ発表評価シート④】
8時間目	クラス発表【グループ発表評価シート④】
9時間目	クラス発表後の振り返り（自己評価シート・感想文800文字【⑤】）

6. 講話実施日の動きについて

日時：平成29年6月22日（木）5・6校時 13:20～15:10

場所：本校 講堂（1階）

講師：札幌市 まちづくり政策局 政策企画部 企画課 企画担当係長 鈴木 陽介 様

テーマ：「さっぽろ未来創生プラン」～若者の希望の実現を目指して～

備考：13:15 廊下整列・移動開始（椅子・筆記用具持参）

13:25 移動完了

13:30 講師紹介・講話開始

（講話時間50分）

14:20 講話終了・質疑応答

14:30 謝辞・講師退場（代表生徒：1年 組 番 名前 ）

14:35 移動開始

14:45 移動完了、事後アンケート【②】

15:10 回収

※講師退場後、6月9日（金）に実施された国内バス研修クラス代表の発表を行う。

平成29年6月22日(木) 講話 メモ

メモ

グループ活動の進め方

1	講話後の事後アンケート (P5)・感想文 (P6) によって自分の考えをまとめる。
2	札幌市の現状について付箋に10項目記入する。(1枚の付箋には1項目のみ書く)
3	内容が似ている付箋ごとにグループを作り全ての付箋を模造紙に貼る。(付箋が重ならないように注意)
4	グループごとにタイトルを考え、模造紙に鉛筆で下書きをする。
5	グループの中から札幌市の課題となるものを探し、発表することを考えながら付箋を移動する。
6	課題に対して高校生として何が出来るのかグループで話し合い、意見を模造紙にまとめる。 (付箋を使用してもよい。模造紙に直接書き込んでもよい。)
7	下書きをマジックで清書する。
8	グループ発表を行う。 ・制限時間：3分以内・5名全員が発言をする。 ・現状→課題→取組の順序で発表する。 ・各グループの発表を評価する。(P7)
9	グループ活動に関する自己評価・他己評価・感想文を記入する。(P8)

【①】

A ・ B ・ C

ビジネス基礎 『地元、札幌を知る』 「さっぽろ未来創生プラン」～若者の希望の実現を目指して～
事前アンケート

①札幌市の人口は、自然増加数（出生数－死亡数）がマイナスである「自然減少」の状態であることを知っていますか？ 1. 知っている。 2. 知らない。

②人口減少が自分達の生活に与える影響について考えたことはありますか？ 1. 考えたことがある。 2. 考えたことはない。

③札幌市において、人口減少が進むことに対して将来の不安を感じますか？ 1. 非常に不安 2. まあまあ不安 3. あまり不安ではない 4. 全く不安ではない。

④札幌市は合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子供の平均数）が全国と比較して低いことを知っていますか？ 1. 知っている。 2. 知らない。

⑤札幌市は人口減少問題に対してどのように取り組むべきだと思いますか？ 1. すぐに取り組むべき 2. 次世代のために徐々に取り組むべき 3. 将来の問題であり、当面取り組む必要はない 4. 人口減少問題に取り組む必要は全くない

⑥札幌市が目指す札幌の将来を知っていますか？ 1. 知っている。 2. 知らない。

⑦札幌市の目標実現のための未来創生アクションを知っていますか？ 1. 知っている。 2. 知らない。

⑧あなたはグループの中で自分の意見を相手に伝えることは得意ですか。 1. 得意 2. やや得意 3. あまり得意ではない 4. 得意ではない

⑨あなたはグループの中で他者の意見を聞き、考えを理解することは得意ですか。 1. 得意 2. やや得意 3. あまり得意ではない 4. 得意ではない

⑩あなたはグループの中で意見をまとめることは得意ですか。 1. 得意 2. やや得意 3. あまり得意ではない 4. 得意ではない

⑪あなたはグループで話し合ったことを、人前で発表する活動は得意ですか。 1. 得意 2. やや得意 3. あまり得意ではない 4. 得意ではない 5. 経験がない

⑫講話を聴き、グループで話し合い、発表をする活動を行います。どのように取り組みたいですか。

【②】

A ・ B ・ C

ビジネス基礎 『地元、札幌を知る』 「さっぽろ未来創生プラン」～若者の希望の実現を目指して～
事後アンケート

①札幌市の人口は、自然増加数（出生数－死亡数）がマイナスである「自然減少」の状態であることが分かりましたか？

1. 分かった。 2. 分からない。

②人口減少が自分達の生活に与える影響について考える機会になりましたか？

1. 考える機会になった。 2. 考える機会にならなかった。

③札幌市において、人口減少が進むことに対して将来の不安を感じましたか？

1. 非常に不安 2. まあまあ不安
3. あまり不安ではない 4. 全く不安ではない。

④札幌市は合計特殊出生率が全国と比較して低いことが分かりましたか？

1. 分かった。 2. 分からない。

⑤札幌市は人口減少問題に対してどのように取り組むべきだと思いますか？

1. すぐに取り組むべき 2. 次世代のために徐々に取り組むべき
3. 将来の問題であり、当面取り組む必要はない 4. 人口減少問題に取り組む必要は全くない

⑥札幌市が目指す札幌の将来を知ることはできましたか？

1. 知ることが出来た。 2. 知ることが出来なかった。

⑦札幌市の目標実現のための未来創生アクションを知ることはできましたか？

1. 知ることが出来た。 2. 知ることが出来なかった。

グループ活動の準備

○札幌市の現状について知ることが出来たことを10項目記入してください。（箇条書きで短く）

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

メモ

$$\underline{A \quad \cdot \quad B \quad \cdot \quad C}$$
[illegible]

【④】

A ・ B ・ C

グループ発表評価シート

私は

班

留意事項

1. 自分の班については評価をしない。
2. 評価項目に基づいて【4：とても良い 3：良い 2：もう少し 1：改善すべき】に○をつける。
3. 自由記述欄も評価の対象となる。

評価項目	1班	2班	3班	4班
①順序(現状→課題→実践できること)が明確か。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
②内容が分かりやすいか。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
③新しい発見はあったか。(創造性)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
④正しい服装か。(身だしなみ)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑤声の大きさは適切か。(コミュニケーション能力)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑥話のスピードは適切か。(コミュニケーション能力)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑦姿勢・目線は適切か。(コミュニケーション能力)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑧全員で協力して発表を行ったか。(協調性・協働性)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑨良い印象が残る発表であった。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1

評価項目	5班	6班	7班	8班
①順序(現状→課題→実践できること)が明確か。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
②内容が分かりやすいか。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
③新しい発見はあったか。(創造性)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
④正しい服装か。(身だしなみ)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑤声の大きさは適切か。(コミュニケーション能力)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑥話のスピードは適切か。(コミュニケーション能力)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑦姿勢・目線は適切か。(コミュニケーション能力)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑧全員で協力して発表を行ったか。(協調性・協働性)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑨良い印象が残る発表であった。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1

自由記述欄

1 班	
2 班	
3 班	
4 班	
5 班	
6 班	
7 班	
8 班	

$$\underline{A \quad \cdot \quad B \quad \cdot \quad C}$$

自己評価シート

- ①あなたはグループの中で自分の意見を相手に伝えることは出来ましたか。**

1. 出来た 2. やや出来た 3. あまり出来なかった 4. 出来なかった

- ②あなたはグループの中で他者の意見を聞き他者の考えを理解することは出来ましたか。

1. 出来た 2. やや出来た 3. あまり出来なかった 4. 出来なかった

- ③あなたはグループの中で意見をまとめることは出来ましたか。**

1. 出来た 2. やや出来た 3. あまり出来なかった 4. 出来なかった

- ④あなたはグループで話し合ったことを、人前で発表することに対して意識の変化はありましたか。

1. 苦手意識が薄れた 2. やや苦手意識が薄れた 3. 変化はない 4. 苦手になった

- ⑤**今回の活動（講話を聴きグループで話し合い発表する）はあなたの為になりましたか。

1. とても為になった 2. 為になった 3. 為にならなかった 4. 分からない

- ⑥ () さんは他者の意見を尊重し、意見を発言していましたか。

1. 出来ていた 2. あまり出来ていなかった 3. 出来ていなかった

() さん	() さん	() さん	() さん
--------	--------	--------	--------

- ⑦題名：グループ討議・発表を終えて（グループ活動に対する感想）

[illegible]

題名：「さっぽろ未来創生プラン」～若者の希望の実現を目指して～ 講話の感想文

	A	B	C
関心・意欲・態度(50) A=50, B=35, C=20	701字以上	501～700字	500字未満
思考・判断(40) A=40, B=25, C=10	構成・内容 ともに良い	構成が良いor 内容が良い	構成・内容に 改善が必要
表現(10) A=10, B=5, C=0	誤字がなく丁寧	誤字or 丁寧さに欠ける	誤字and 丁寧さに欠ける

A 3D coordinate system with x, y, and z axes. The x-axis is horizontal, the y-axis is vertical, and the z-axis is diagonal. A grid is shown in the xy-plane. Three points are marked: A at (1, 1, 1), B at (2, 2, 2), and C at (3, 3, 3).